

# 日本社会福祉系学会連合 「2018年度事業計画および日本学術会議社会福祉学分科会 による『提言』について」

日本社会福祉系学会連合 事務局長 和気 純子

## 1. 2018年度事業計画

日本社会福祉学会の新体制発足に伴い、日本社会福祉系学会連合も会長を含め体制が変わりました。「日本社会福祉系学会連合規程」第6条に基づき、会長は会員学会の担当委員の互選により、日本社会福祉学会の木原活信副会長が選出されるとともに、以下のとおり、運営委員の体制が決まりました。

会長	木原活信（日本社会福祉学会）
事務局長・学術会議担当	和気純子（日本社会福祉学会）
広報担当	小櫃俊介（日本社会福祉学会）
庶務担当	後藤広史（日本社会福祉学会）
会計担当	渡辺裕一（日本地域福祉学会）
研究担当	高山恵理子（日本医療社会福祉学会）
研究担当	小川晃子（日本福祉介護情報学会）
研究担当	吉村彰史（日本仏教社会福祉学会）
監事	永山誠（日本福祉文化学会）

新しい体制のもとで、これまで同様、会員等の活動に関する情報交換、シンポジウム等の開催、ホームページにおける災害福祉アーカイブの作成（継続事業）、電子版ニュースレターの発行、加盟学会の活動に対する補助、日本学術会議の活動に対する支援と協力等の事業に取り組んでまいります。事務局は引き続き、(株)国際文献社に委託いたします。

なお、本年5月27日に開催された総会で審議された事業報告、事業計画等の詳細は、10月中旬に配信される「社会福祉系学会連合ニュース」に掲載いたします。

## 2. 日本学術会議社会学委員会社会福祉学分科会による『提言』と公開シンポジウム

本学会連合は、日本学術会議社会学委員会社会福祉学分科会の研究・活動を支援しています。本年9月13日、当該分科会より、(提言)「社会的つながりが弱い人への支援のあり方について－社会福祉学の視点から－」(<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/2018.html>)が公表されました。以下、記者発表要旨の一部を掲載しその概要をお知らせするとともに、1月14日

に日本学術会議講堂にて開催される公開シンポジウム「社会的つながりが弱い人への支援のあり方について」のご案内をいたします。ふるってご参加ください。

<記者発表要旨から抜粋>

平成 30 年 9 月 13 日

日本学術会議社会学委員会社会福祉学分科会

(提言)「社会的つながりが弱い人への支援のあり方について—社会福祉学の視点から—」

## 1 現状及び問題点

近年、孤独死、ひきこもり、自殺者など社会的つながりが弱い人の問題が増加している。こうした問題の背景には、家族、職場、地域社会といった安定的であった帰属の場を喪失した場合だけでなく、これらの帰属の場そのものが流動化し不安定化したことがある。今後、社会的つながりが弱い人の問題は、先進諸国で大きな社会問題となっていくことが予想される。実際イギリスでは、今年孤独担当相を設置し対策を検討している。本提言は、この問題に対して社会福祉学の視点から、政府、自治体、社会福祉関係団体に対して必要な政策等を提言するものである。

## 2 提言の内容

### (1) 包括的な相談支援体制を構築するために

- ・コミュニティソーシャルワーカーを日常生活圏域ごとに 1 万人配置すること。
- ・縦割りで予算化されている事業予算を市町村が柔軟に再編成できるようにして、社会的つながりが弱い人の新たなニーズに対応できるようにすること。
- ・各行政機関や公共サービス事業者が有する生活困難リスクに関する情報を市町村において集約化してリスクマネジメントできる体制を構築すること。
- ・既存の市町村社会福祉行政や保健所等の一部の機能を再編成し、専門的緊急支援が可能な体制（「福祉署」(仮称)）を創設すること。

### (2) 社会的つながりを再構築するために

- ・市町村において、分野横断的な地域福祉計画の策定を義務化すること。
- ・適切な受援力を高めるための学校教育プログラムの開発等を行うこと。
- ・差別を受けやすい人の社会参加を促進するために「合理的配慮」の対象を障害者に限らず拡大すること。
- ・属性ごとの社会福祉法体系からニーズベースの社会福祉法体系へ転換すること。

## 日本学術会議公開シンポジウム 「社会的つながりが弱い人への支援のあり方について」

1. 主 催：日本学術会議社会学委員会社会福祉学分科会
2. 共 催：日本社会福祉系学会連合
3. 後 援：社会福祉法人全国社会福祉協議会、公益社団法人日本社会福祉士会、公益社団法人日本精神保健福祉士協会、公益社団法人医療社会福祉協会、一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟
4. 日 時：平成 31 年 1 月 14 日（月）14：00～17：40
5. 場 所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木 7-22-34）  
（東京メトロ千代田線「乃木坂」駅 5 出口すぐ）
6. 開催趣旨：日本学術会議社会福祉学分科会は、提言「社会的つながりが弱い人への支援のあり方について—社会福祉学の視点から—」を表出した（平成 30 年 9 月 13 日）。本提言は、社会的つながりが弱い人を①家族・職場・地域における人間関係が希薄になっているため、②家族の成員間の関係性があっても家族の外部に対しては閉鎖的なため、自ら欲しても社会的な相互承認の場を十分に持てない人と定義した。こうした社会的つながりが弱い人は、近年増加しているが、その背景には、家族、職場、地域の変容があり、単にライフスタイルの結果ではなく、社会問題としてとらえる必要がある。実際に今年、イギリスは孤独担当相を設置して政府としての支援政策の検討を開始した。日本でも無縁死、ひきこもりなどの形で表面化しつつあるこの問題に対し、政府、自治体、社会福祉関係団体が一体となって支援策を検討しなければならない時期に来ていると言えよう。本シンポジウムでは、提言内容の紹介、イギリスの対策の現状を確認した上で、政府関係者およびこの問題に取り組んでいる団体関係者をシンポジストとして迎え、国民及び関係者に対してこの問題の重要性を喚起し、日本における社会的つながりが弱い人への支援のあり方について検討したい。
7. 次 第：  
14：00 開会のあいさつ  
白澤 政和（日本学術会議連携会員・社会福祉学分科会委員、桜美林大学大学院老年学研究科教授、一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟会長）

14:10 日本学術会議提言「社会的つながりが弱い人への支援のあり方について—社会福祉学の視点から—」の説明

岩崎 晋也（日本学術会議会員・社会福祉学分科会委員長、法政大学現代福祉学部教授）

14:30 講演「イギリスにおける孤独問題と社会的支援」

ジャネット・ウォーカー（リンカーン大学保健・社会福祉学部副学部長、国際ソーシャルワーク学校連盟イギリス代表理事）

15:30-15:40 （ 休憩 ）

15:40 シンポジウム「社会的つながりが弱い人への支援のあり方について」

（司会）

原田 正樹（日本学術会議連携会員・社会福祉学分科会委員、日本福祉大学社会福祉学部教授）

（シンポジスト）

高木 美智代（前厚生労働副大臣）

勝部 麗子（社会福祉法人豊中市社会福祉協議会福祉推進室長）

奥田 知志（NPO法人抱樸理事長）

（コメンテーター）

岩崎 晋也（日本学術会議会員・社会福祉学分科会委員長、法政大学現代福祉学部教授）

ジャネット・ウォーカー（リンカーン大学保健・社会福祉学部副学部長、国際ソーシャルワーク学校連盟イギリス代表理事）

17:30 閉会のあいさつ

木原 活信（日本社会福祉系学会連合会長、同志社大学社会学部教授）

8. 参加費：無料、事前申し込み不要

9. 問い合わせ先：

日本社会福祉系学会連合事務局

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター

TEL 03-5937-0047 FAX 03-3368-2822

E-MAIL union-jssw@kokusaibunken.jp